

日本の 神話

ヤマタノオロチのお話

スサノオと、頭も 尾も 八つの 大蛇

- ① 古事記に書かれたヤマタノオロチのすがたは、「頭が八つで、尾は一つ」「頭も尾も八つずつ」「頭が一つで、尾が八つ」のどれですか。

ヒント 名前の「ヤマタ」は、八つに分かれていることを表しています。頭だけでしょうか。

答え 「頭も 尾も 八つずつ」です。おじいさんが、オロチは体は一つで、頭が八つ、尾が八つあると話しています。体には木などが生え、いくつもの谷と山にわたるほど大きいと語られています。

- ② スサノオがオロチをねむらせたものは、「強いお酒」「おどりと笑い声」「やさしい子もり歌」のどれですか。

ヒント 八つの門の前に、何を入れたうつわを置いたかを思い出そう。

答え 「強いお酒」です。何度もくりかえして作った強いお酒を、八つの門ごとのうつわに入れておき、オロチは頭を入れて飲んで、よってねむってしまいました。「おどりと笑い声」は、天の石屋のお話でアマテラスに出てきてもらった方法です。

- ③ スサノオがオロチをたいじしたとき、尾の中から出てきたものは、「かがみ」「玉のかざり」「大刀」のどれですか。

ヒント スサノオがアマテラスにさしあげたものです。

答え 「大刀」です。古事記では「草那芸の大刀」と書かれ、スサノオはそれをアマテラスにさしあげました。「かがみ」と「玉のかざり」は、天の石屋のお話で神さまたちが用意したものです。